



**Data**

監督: ウェス・アンダーソン  
製作: ウェス・アンダーソン/スコット・ルーディン/ステイブン・レイルズ/ジェレミー・ドーン  
出演: コーユー・ランキン/リーブ・シュレイパー/ブライアン・克蘭ストン/エドワード・ノートン/ボブ・パラバン/ビル・マーレイ/ジェフ・ゴールドブラム

### ■■■ショートコメント■■■

◆第68回ベルリン国際映画祭で銀熊賞(監督賞)を受賞した映画と聞いて、こりゃ必見! さらに、本作の監督が『グランド・ブダペスト・ホテル』(14年)のウェス・アンダーソン監督と聞くと(『シネマ33』17頁)、その面からもこりゃ必見!

そう思ったが、人形アニメーション映画という本作は私には違和感があり、イマイチ。5月28日付朝日新聞「文化・文芸」欄では、3人の識者が本作を巡って日本の描き方、人形アニメの魅力を読み解いていたが、それでもやはり・・・。

◆本作のストーリーは以下の通りだ。すなわち、

近未来の日本。ドッグ病が流行するメガ崎市では、人間への感染を恐れた小林市長が、すべての犬を“犬ヶ島”に追放する。ある時、12歳の少年がたった1人で小型飛行機に乗り込み、その島に向かった。愛犬で親友のスポッツを救うためにやって来た、市長の養子で孤児のアタリだ。島で出会った勇敢で心優しい5匹の犬たちを新たな相棒とし、スポッツの探索を始めたアタリは、メガ崎の未来を左右する大人たちの陰謀へと近づいていく――

しかして、メガ崎市では犬反対派vs犬愛護派の抗争が発生し、犬ヶ島では少年アタリと、アタリを助けるヒーロー犬たちのスポッツ探しが始まるが、その発見は意外に容易。さあ、そこからいかなる物語が・・・。

◆日本では近時、秋田犬の人氣が高まり、●で優勝したロシアのザギトワ選手に対して●歳の秋田犬「●」が贈られたことが大きな話題を呼んでいる。そんな時に本作が公開され、犬愛護派が強くなっていくことは大歓迎だが、それと映画の出来は別。前述の朝日新聞では、町山智浩氏(映画評論家)は『七人の侍』の音楽を使い、舞台になっているメガ崎市の市長は三船敏郎がモデル。犬が隔離されるゴミの島が、ゴミ捨て場のような街が舞台の

『どですかでん』を想起させますし、黒澤明監督からの影響が感じられる作品です。」と述べているが、残念ながら私にはそこまで理解できない。また、中村伊知哉氏（慶応大教授・メディア政策論）は「今作には、昭和レトロなテレビや電話と、今っぽい都会のビルや工場がごっちゃに登場します。太鼓の黒澤明的リズムと昭和30年代の日活映画のような単音ギターが響き、友情と勇気で悪と立ち向かう少年と犬たちは『七人の侍』や戦隊モノとの類似性もあります。」と述べているが、これも私にはあまり理解できない。そんなこともあって、本作の私の採点は星3つ！

2018（平成30）年5月30日記